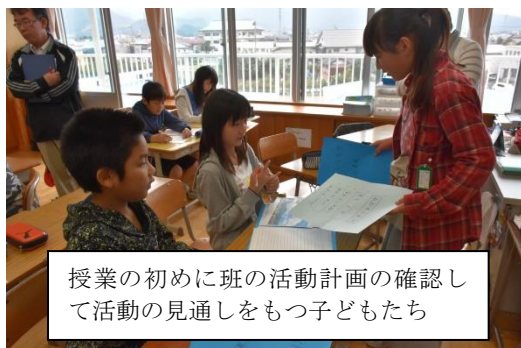


地域の紹介パンフレット「あおきじマップ」の実現に向け、活動に見通しと目的をもち、題材に主体的にかかわることができた子どもたち



授業の初めに班の活動計画の確認して活動の見通しをもつ子どもたち

本学級の子どもたちは、指示されたことや授業にはまじめに取り組める子どもたちである。しかし、自らやってみようと思ったことに対して「どうせできるわけがない」と挑戦をあきらめてしまったり、係活動で計画したことが計画倒れになってしまったりすることがある。課題として、願いやあこがれといったものに向かって、自分が何をしたらよいのか、自分にできることは何かを考えて行動することや、意思決定をする場面において

消極的な態度に終始してしまうといった傾向が挙げられる。本学級の子どもたちに求められる力は、将来の夢や目標にむかって見通しをもって努力する力であり、粘り強く課題に対応して行動する力であると感じている。今年度の総合的な学習の時間の実践を通して、その具現を図りたい。学習活動の中で、身近な課題について友と話し合ったり、協働して関わったりしながら活動する対話的・課題解決的な学びは、キャリア教育で目指す人間関係・社会関係能力、課題対応能力の育成につながるといえる。また、活動全体に見通しをもち、自分のできることを見つけて役割を果たすことや、活動を展開しながら、その学びを振り返り、よりよい方法や自分の在り方を思考することは、自己理解・自己管理能力やキャリアプランニング能力の育成の過程につながるといえる。その過程を繰り返す中で、子どもたちは「やればできる」「自分にもできることがある」という達成感や自信を得て、自己肯定感を高めていくことができるだろう。「自己肯定感」は、これからの子どもたちのキャリア発達（社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく過程）の礎となるものであり、本実践の中でも大切にしてきたことである。これまでの学習における子どもの振り返りの軌跡と実際の学びの姿から、本実践を振り返る。

I 総合的な学習の時間において「つける力」

- 自分たちのまちの景観のよさに気づく活動を通し、自分たちを取り巻く景観の意味やまちのひとたちの思いを知ることで自らもまちの景観づくりに関わろうとする態度と郷土を愛する思いをもつ。
- 身近なまちの環境や景観とまちの人たちの思いとのつながり自分のすむまちの歴史と景観との関係地域のよさや課題をみつけ、自分のまちをよりよい環境にするための方策を考え実践する。

II キャリア教育の視点から育てたい能力

キャリア教育の視点	育てたい能力
課題対応能力	うまれた問題や問いに対して自分のとるべき行動を、具体的な案の中からよりよい解決策を選択したり、できることは何なのかを考えたりする中で、見通しを持った行動や計画を実現・達成することを通し、様々な問題や課題に対応する能力を育む。
人間関係形成・社会形成能力	グループ活動や地域の人たちとの出会いや関わりを通して、自分の考えや意見を相手にわかりやすく伝えることのできるコミュニケーション能力を身につけ、他者と協同する中で学んだことから自分なりの新しい考え方・方法などを見いだすことのできる人間関係形成能力の育成を図る。

自己理解 ・自己管理能力	あおきじマップの製作を通して、所属する地域社会をみつめなおし、自分にできることを考え実践する中で、自分の活動の価値や意味を感じ自己肯定感をもち、これからも進んで学ぼうとする力を育む。
キャリアプラン ニング能力	地域社会に関わる課題に仲間と協同し、課題解決に取り組み、地域に貢献する喜びを感じることで、地域の中での自分の生き方や関わり方に前向きに取り組もうとする子どもの姿を育み、キャリアプランニング能力の育成を図る。

Ⅲ 実践事例

1 単元名 「見つめ直そう。わたしたちのまち青木島 ～あおきじマップをつくろう!～」

2 単元設定の理由

青木島町は、犀川沿いの郊外に位置する地区である。多くの田畑が残っているものの、宅地化が急速に進行するベッドタウンである。住宅地が広がり、コンビニやスーパーなどが隣接しており、生活する上では不便を感じることはほとんどない。本学級の子どもたちのまちへの関心度は低く「好きでも嫌いでもない」「家やお店はあるけど、他にはいいところはあまりない」という印象をもっている子どもが多かった。そこで、自分たちを取り巻く景観の意味やまちの人たちの思いを知ることで「何もない」と感じていた「自分たちのまち」に興味や愛着をもち、大切にしようとする態度と郷土を愛する思いを醸成したいと考えた。地域社会に関わる活動に取り組みながら、仲間と協同し、課題解決に取り組む活動の中で、見通しをもった行動や計画を実現・達成させることを通し、様々な問題や課題に対応する能力を育んでいきたい。また、地域に貢献する喜びを感じることは、「自分たちにもできることがある。」「やればできるんだ」という自信や、自己肯定感をもち、自分の将来の夢や希望に向かって前向きに学ぼうとする子どもの姿の育成にもつながると考え、本単元を設定した。

3 単元目標

- 景観学習を通し、景観に関わる自分のまちの歴史や人の思いを知ることで、自分の住むまちへの思いや愛着を深めることができる。
- 地域と関わる中で、自分が地域をよりよくするためにできることは何かを考え、その実現に向けて見通しをもった計画を立案し実行することができる。

4 単元展開の大要（活動の実際）と評価規準

月	学習課題（子どもの問い）と学習活動	○学習対象 ・学習事項	単元	備考
4	<p>青木島町のいいところをみつきたいな ～自分たちのまちに関心をもつ～①</p> <p>①町探検を行い、話し合いを通し、課題を設定する。 ②「景観プランナー」の活動を通し、町を見直す。 集めた町の景観の写真をグループでテーマごとにまとめて発表する。</p>	○青木島の景観 ・地域のよさや課題をみつける	A	C T D P
5	<p>まちの景観ってなんだろう ～自分たちのまちに関心をもつ～②</p> <p><青木島の景観について> ① 市の町づくり推進課の方から「長野市の景観づくり」についてお話をきく。 ② 集めた景観の写真をもとに発表資料をつくり、発表する。</p>			
6	<p>他のまちの景観と青木島の景観はどう違うのだろうか～まちへの興味を深め課題をもつ～</p> <p><佐渡の景観について> ③ 臨海学習で訪れる「佐渡」の景観の取り組みについて調べる。 ④ グループごと、グループのテーマに沿った「佐渡」の景観写真を撮ってくる。 ⑤ グループでまとめて発表資料を作り発表する</p>		B	

7	<p><東京の景観について> → 10月</p> <p>⑥ 東京社会見学で訪れる「佐渡」の景観について調べる。</p> <p>⑦ グループごと、グループのテーマに沿った「佐渡」の景観写真を撮ってくる。</p> <p>⑧ グループでまとめて発表資料を作り発表する</p> <p>⑨ 「佐渡」と「東京」の景観と「青木島」の景観を比べることを通し、「青木島」の景観に対して興味を深め、新たな問いをもつ。</p> <p>青木島町の景観への取組みはなんだろう。</p> <p>①更北公民館の方に更北の取組みについて話をきく。</p> <p>②本やインターネットで調べる。</p> <p>③取組みやわかったことについてまとめる。</p>	<p>○長野市の景観づくりに関わるひとの思いやきまり</p> <p>○青木島とは違う町の景観</p> <p>・町の景観づくりのルールをしり、自然保全・歴史的保全・にぎわいといった観点からまちの景観をみつめなおす</p>	C P														
<p>青木島町の景観のために自分たちにできることはあるかな ～地域のために自分のできることを考える～</p>																	
8	<p>①地域の人たちの意識調査を行う。</p> <p>②自分たちにできることは何かを話し合う。</p> <p>③町の人たちの意識調査を行う</p> <p>④調査結果をもとに活動を考える。</p>	<p>・自分たちとまちの関わりについて考える。</p>	C P														
<p>9 青木島町の景観のいいところを探してみんなにつたえたいな。～地域のことをより深く知り思いを深める～</p>																	
10 11 12	<p>①青木島のことをもっと知って、もっと好きになって、すてきなまちにするために、青木島の紹介パンフレット「あおきじマップ」を作ろう。</p> <p>②調査結果をもとに考えた活動について話し合う。</p> <p>③活動を行う計画をたてる。</p> <p>④活動に必要な情報や方法について情報をつめる。</p> <p>⑤グループで分担して活動を行う。</p> <p>⑥グループごと活動の経過報告会を行いながらよりよい活動を構築していく</p> <table border="1" data-bbox="311 1131 1189 1422"> <tr> <td>分担グループ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>伝わりやすい記事の内容を考える</td> </tr> <tr> <td>タイトル文字</td> <td>興味を持ってもらえるような表紙のタイトル文字づくり</td> </tr> <tr> <td>キャラクター</td> <td>青木島町オリジナルのキャラクターづくり</td> </tr> <tr> <td>地図</td> <td>記事とリンクした地図の作成</td> </tr> <tr> <td>レイアウト</td> <td>全体の構成・ページ割などを考える。</td> </tr> <tr> <td>特設コーナー</td> <td>まちのよいところをさらにアピールする内容を考える。</td> </tr> </table>	分担グループ		内容	伝わりやすい記事の内容を考える	タイトル文字	興味を持ってもらえるような表紙のタイトル文字づくり	キャラクター	青木島町オリジナルのキャラクターづくり	地図	記事とリンクした地図の作成	レイアウト	全体の構成・ページ割などを考える。	特設コーナー	まちのよいところをさらにアピールする内容を考える。	<p>○「あおきじマップ」づくり</p> <p>・自分のまちをよりよい環境にするための方策を考えて実践する。</p>	D C T D P
分担グループ																	
内容	伝わりやすい記事の内容を考える																
タイトル文字	興味を持ってもらえるような表紙のタイトル文字づくり																
キャラクター	青木島町オリジナルのキャラクターづくり																
地図	記事とリンクした地図の作成																
レイアウト	全体の構成・ページ割などを考える。																
特設コーナー	まちのよいところをさらにアピールする内容を考える。																
<p>10 青木島町の紹介パンフレットをどうやって広めたらよいだろう。～自分たちの思いや活動を広める～</p>																	
1	<p>①広め方について各自考え、意見を出し合う。</p> <p>②自分たちにあった方法について、仲間と選択したり話し合ったりしながら決め出す。</p> <p>③計画を立案し、分担して活動を行う。</p>	<p>○更北支所の島田さんに配布の方法をきく。</p> <p>○活動の経過報告を行いながら、よりよい活動を構築していく。</p>	C P														
<p>11 自分たちの思いや活動はみんなに本当に伝わったのだろうか。～自分たちの思いや活動を広める～</p>																	
2	<p>①自分たちの一年間の活動を振り返る。</p> <p>②インタビューやアンケート調査を通してまちの人たちの意識の変化を調査する。</p> <p>③活動の報告書をつくり、報告会を行う</p>	<p>・自分たちとまちの関わりについてみつめなおす</p> <p>・青木島の景観について、地域の人と情報交換し、新たな課題について話し合う。</p>	E C P														

※備考欄はICTの活用場面

C(デジタルカメラ)・P(パソコン)・T(タブレット)・D(電子黒板)

5 児童の実際

分 担	
○	プレゼン分担当決め→イラスト作り アンケート集計
○	プレゼン分担当決め→イラスト作り アンケート集計
○	イラスト作り(書き)
○	イラスト描き
※	もぐりしをい使ってイラスト作り プレゼン資料で分担当決め

時間	スケジュール
～ 11:10	プレゼン分担当決め、イラスト作り イラスト作り(書き)
～ 11:15	プレゼン練習 プレゼン確任

1時間の活動計画・分担当表

(1) 友だちと課題を解決するよさを感じながら、自分にできることは何かを考え、活動に見通しをもって計画を進めていくことができるようになったD児(9月) ～課題対応能力の視点から～

単元Dでは、一人一人が自分の役割をもって活動を展開できるように、毎時間、1時間のグループの活動計画・分担当を作成してから活動を始めた。D児はパンフレットの特設コーナーを担当し、青木島町から見える山々を紹介するページを担当するグループに入った。D児はそれまでグループの活動に自分から進んで関わっていくことに消極的で、友だちが活動しているのを後ろから見ていることが多かった。D児の学習の振り返りの記録からその変容をみていく。

D児のグループの活動内容	D児の振り返りの記録
以前集計した町の人への特設コーナーに、何を盛り込むかをグループで話し合ったが、良い案が浮かばず話し合いが難航する。D児は話し合いにうまく関われなかったことを自分の反省点として振り返った。	今日は計画した活動をすすめられたけど、自分は少しふざけてしまったので、次回はそのようなことがないようにしたい。 【9月22日】
特設コーナーに、青木島町から見える山々を紹介するという案をもとに、プレゼンテーションづくりに取りかかる。D児は図書館で山の本を探す担当になるが、みつからずに戻る。その後グループの友だちがパソコンで作業をすすめる中、D児は次にすべき行動を自分で考えられず、友だちにアドバイスをもらって、インターネットを使って山の名前を調べ始めた。	今日は特設コーナーに出すプレゼンテーションづくりに入った。次もプレゼンテーションを作る。でも、自分が何をやっていいのかよく分からなかったから、次は始めに何をやるのか分担当をちゃんと決めたり、自分で考えたりしてやっていきたい。 【9月27日】
紹介コーナーを作る根拠として、地域の人へのアンケート結果をグラフにする作業を担当した。これまでの自分の活動が形にならなかったことの反省を生かし、自らできそうなことを考え具体的な活動を始めることができた。そのこと自体にD児本人が手応を感じていた。	今日はアンケートのグラフを完成させた。終わった後、ぼくはぼーっとしていたけれど、発表するときの原稿を考えなければいけないことに気がついて作ることができた。考えれば言われなくても自分にもできることがあるということがわかった。 【10月3日】

当初、グループでの活動に見通しをもてていなかったD児は、1時間の活動計画・分担当表で自分のやるべきことを確認してから活動に入ることができた。しかし、9月27日の活動で、D児は図書館で山の名



役割をもってグループの友だちと活動するD児(右)

前の書いてある本を探すという分担当の通り図書館へ向かうが、本が見つからずに教室に戻ると、グループの他のメンバーはプレゼンテーションの作成に入っていた。そこでD児はどうしてよいか分からず活動をやめてしまった。その日の感想からD児は、自分に分担当された仕事をこなすだけでなく、個人の活動前にグループ全体でやろうとしていることや手順を理解して、自分がどう動くべきかを決めて活動することの必要性を感じとったことがうかがえる。

さらに、10月3日の感想からはD児が分担当の作業を終えた後、グループ全体でやろうとしていることに目を向け、次に自分ができることについて主体的に考え、グループにかかわろうとしたことが分かる。また、単元の振り返りでは(左図)D児が友だちと共に活動するよ

さを徐々に感じるようになってきていることがわかる。

D児の本単元における変容を通して、実感し、「課題を明確にし、その課題の解決に向けた道筋を見通すことによる、自ら追究をしていこうとする意識の育み」と、その解決に向けた取組や過程を友だちと共有することを通じた「自分の役割に対する責任感の芽生え」であった。D

児はこの経験を積み重ねていくことを通して、自らの学びに対する自信を深め、見通しをもって連続的に学習や活動を進めて以降とする力がついたと捉えることができる。

始めにやることを決め、決めたことをやり遂げる力を自分たちの生活に生かしていけるし、解決も調べるだけでなく、聞いたたりすることができました。
グループの中で分担して活動があり、協力しながら活動ができているので、協力が一人一人が活動に力をいれていることがグループの活動のよさだと感じました。

D児の単元振り返りカード

(2) グループ活動や地域の人たちとの出会いやかかわりを通して、友だちと協働する中で、

友だちの意見を取り入れるよさと新しい情報の収集の方法を考えたE児（11月）



アンケートの取り方を確認するE児（左）

～人間関係形成・社会形成の視点から～

E児は青木島町のキャラクターをつくることを提案するグループに入った。「町の人たちが興味を示すようなキャラクターを作り、たくさんの人にマップを見てもらいたい。」という願いのもと活動を始めた。グループの友だちとインターネットや本で全国の地域のキャラクターの、共通点や特徴について調べながら、妖精の姿をした草花をモチーフとした青木島町のキャラクターを決め出していく。このキャラクターについて、クラス全員の意見を

短時間で聞くために電子黒板とタブレットを使ってアンケートを行った。まず、全員のタブレットに提案するキャラクターの図案を配信する。各自がタブレット端末に配信された図案に自分の考えや意見を書き込み送信すると、電子黒板に全員の意見や訂正の入った図案が一斉に表示される。E児たちのグループは、その一覧をもとに、友だちの意見を取り入れながらキャラクターの原案を練り直していった。

本時では、タブレットを使ってクラスにキャラクター提案するための練習を行った。

(タブレットを使って練習を始める。G児電子黒板を操作する。H児,E児タブレットを操作する。)

G児：これからキャラクターグループ発表を始めます。礼

E児：キャラクターグループでは、草花をモチーフにしてこのキャラクターをつくりました。

理由は青木島の写真を見たとき、自然が多くて草は名がイメージに合っていたので、このキャラクターにしました。

F児：特徴は葉っぱの服や、花のかざりをつけました。それでは2分間時間をとるので、その間に「名前」と変えた方がよい所を書いてください。質問のある人はいますか？それでは始めて下さい。

H児：時間になるので送信して下さい。全員送信しましたか？それではしめ切ります。

E児：ご協力ありがとうございました。今のを元に名前を決めて直していきたいと思います。これでキャラクターグループの発表を終わります。礼（一度通して練習が終わった後）

F児：全員の画面を見せたいよね。

G児：どうやったっけ？

E児：先生、前やってたよね。

G児：うん、できるはず。

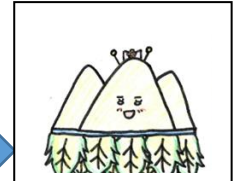
自分たちの独自のキャラクターを構想したいという願いをもって意欲的に活動していたE児は、自分の提案する妖精の図案が地域を代表するイメージ図になることへの期待と自信を持っていた。しかし、自分たちの描き上げた図案をクラスの友だちに見てもらい、感想や新たなアイデアをもらうことができたことで、E児の構想が刷新され、より地域に根ざしたキャラクターの考案を考えることができた。

「アンケートをとる前に提案されたキャラクター」



クラスの見
・もっと簡単でいい
・青木島の特徴がもっと
わかるもの・・・など

タブレットを使った
クラスアンケートを
受けてキャラクター
を変更



右のE児の振り返りからは「地域のために・地域を代表するキャラクター」づくりという過程で、情報収集の工夫を考え、友だちの意見を取り入れるよさを実感したことが分かる。地域への自分の思いや願いを友だちと共有・協働することでより深めていくことができた結果だと思われる。

(3) 地域の中で自分にできることを考えて実践する中で自分の価値や意味を感じることができたI児(9月)

～自己理解・自己管理能力の視点から～

4月、単元AでI児は町探検を通して、今まで見過ごしてきた自分たちの住むまちの景観のよさに気づく楽しさや喜びを感じることができた。そして、そのよさを地域に伝えたいという強い意欲をもつようになった。単元Dのあおきじマップの製作過程では、友だちと休日を使って写真を撮りに行ったり、地域の人に話を積極的に聞いたりしながら、主体的に活動を展開し、追究を深めていくことができた。単元の振り返りには「4月に比べて周りをよく見るようになったし、ポイ捨てなどを簡単にやらなくなった。お花が咲いていると、きれいだなーと感じるようになった。4月の自分は気分であいさつをしていたけど、今の自分は誰でも明るいあいさつをかわせるようになりました。近所の人たちにアンケートをとったとき、青木島は私にとって大切な場所だと言ってくれました。この言葉が一番心に残っています。」と記している。E児にとってこのことを通して、地域の中で生きていく一人として、地域でどのような生き方をし、地域に関わっていったらよいかを考えることができたように思う。

IV 研究の成果と課題

地域を題材とし「自分のまちのよさをみつけない」という子どもの願いに沿って課題を見つけ、活動を展開する中で、子どもたちは課題の解決に向けた見通しや、方法を構想したり、仲間と相談し工夫したりしながら「あおきじマップ」という形で、自らの願いが形になることを体験することができた。子どもたちは、その喜びを友だちと共有することで、自らの学びに自信を深めることにつながったように思う。

また、子どもたちは完成したパンフレットを配布する活動を通して、地域の方からのたくさんの手紙やよい反応をうけて、地域の一員として貢献する喜びを感じることができた。地域の中で前向きに生きていこうとする姿勢や、地域の景観や環境を大切にしていこうとする姿勢が育まれたと思われる。

電子黒板で

最初にキャラクターを作ったとき、アンケートをとったけれど、タブレットを使って書き込んでもらったら言葉を書いている人がいたけれど色があるので、具体的にどこをどうすればいいか使い分けていて人によってさじさじだけれど、そのおかげで自分達はより良いキャラクターを作れてうれしい。

どことなく達成感があるような感じがしてとても良かったと思ってるし、意見を取り入れてやってきたので、私は全員で作らせたのだと思ってる。

アンケート後キャラクターを完成させたE児の感想